

平成26年12月27日（土）作成

主担当：片山 敏郎・副担当：田村 武士

平成26年度教育事業評価 PDCAシート（プログラム開発・指導者・連携事業）

事業区分	利用促進・普及活動事業
事業名	第22回 山口とくちマウンテンバイク大会
実施期間	平成26年10月19日（日）
参加者	【参加人数／募集人数】＝245人／300人 【対象】ご家族、一般、どなたでも
連携	【連携先】深坂自然の森 森の家下関 ANO サイクル 【連携先との役割分担、連携内容】大会の企画・運営に関する立案・実施・評価 会場及びコース設営、大会当日の運営
PLAN	<p>【事業企画にあたっての背景、対象ニーズ、現状分析、仮説等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人まで、対象を選ばずに活動できるランニングやマラソンに加え、自分の体を使った運動に対するニーズが高まってきている。 ・山口県内では、他に自転車大会があるが、本大会はマウンテンバイクの大会である。 <p>【事業の目的・目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本所の活動エリアであるマウンテンバイクコースをコースの一部に設定し、参加者の健康促進とともに、本所の利用促進を図る。 <p>【本企画のポイント（ウリ）】※継続事業については別紙記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全コース中、自然のままの山道が四分の三以上を占め、緑に囲まれた自然を楽しみながら走ることができる。 ・中級者から上級者まで、満足してもらえる高低差がある。
DO	<p>【事業実施・運営にあたり工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動タイム計測を利用して2年目になるが、タイム計測だけでなく、周回ラップを表彰式までに印刷して、参加者に渡すことで、参加者同士で大会をふりかえるための資料として提供することができた。 ・コースの分岐やピークとなるポイントに立哨人員を配置することで、選手の安全と応援にあたった。
CHECK	<p>【支出経費／予算】＝ 円／ 350,000円</p> <p>【成果の具体的内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キッズレースの名称を「キッズわくわくチャレンジ」と変え、年齢区分を3から4区分に変えることで、学年差を少なくし、幼児の部・小学低学年の部・中学年の部・高学年の部に分けて実施した。 ○2時間耐久・1時間耐久ともに、ソロとペアを同時スタートとした。 <p>【見えてきた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キッズの参加者が増え、小学生中学年の部が3レースとなり、表彰式が予定よりも40分近く開会が遅れた。高学年の部のコース周回数が時間が足らず、4から3周に減らして対応することとなった。 ○レンタルバイクの希望が増えたために、レース後、破損したバイクが増えた。
ACTION	<p>【今後の方策（次年度への改善点）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大会名の表示がよくわかるふわふわドーム形式のスタートゲートを検討したい。 ○レンタル用のバイクの整備、ブレーキ部品がしっかりしたバイクを新規購入する。
成果	【得られた知見】

国立山口徳地青少年自然の家 事業評価シート（プログラム開発・指導者養成・連携協力用）

	<p>○参加者にとって、他の大会と比べても、本大会のコースは魅力的なコースである。</p> <p>○気候的にマウンテンバイク大会を行う時期として最適である。</p> <p>○自動タイム計測を導入して2年目であるが、スムーズな大会運営ができた。</p> <p>【参加者満足度： 95%】</p> <p>【参加者コメント（講師評価含む）】</p> <p>○コースがスピードが出る下り、テクニカルな各所もある上りなど、変化があるコースで楽しめた。</p> <p>○坂道がこけそうでスリル感がすごかった。</p> <p>○初めて2時間耐久レースのソロに参加、コースが難しくきつかったが、楽しかった。</p> <p>【公立施設や民間団体への普及状況・普及予定】</p> <p>○近県の自転車大会にチラシを配布し、本大会の一層の周知を図る。</p>
<p>講師 ボランティア</p>	<p>【講師名・所属・担当内容】※機構職員が講師を務めた場合も記載</p> <p>【関わったボランティア】のべ人数（全体指導者・補助指導者の数）</p> <p>12人</p>
<p>その他 特記事項</p>	